

# はじめての和和翻訳～誤読の練習帳～

減多少増  
(20230825-)

1.

和和翻訳とは和文から和文への翻訳のことです。

2.

和和翻訳とは和文から和文への翻訳のことです。これは和和翻訳です。

3.

和和翻訳とは文を加えて枯れた文を鯉に話すことです。これは和和翻訳です。

4.

和知は、転倒した言い訳を穴とか口元に、餅を結んで詰めるのです。これが和知の瓢箪です。

5.

知如は転倒したと言い、証拠に穴子を只で館に箱で納めるのです。これが初めて知った剽窃です。

6.

如来は輪転した。とえはたえの言い伝えでは六つ子を処刑し棺桶で炒めるのです。それが切れて助けた鼯の憑依です。

7.

従来は車輪でした。たえまないたとえ話の事典では鼠六匹。処により形あり。管理する蛹にも多少あるものです。彼が切れるのは、剛力の鼯が憑依したのです。

8.

従者は車座で土下座。たたえるまな板の話とはいえ事件は髭の六四分け。外はおい杉あり。崇る狸と大蛸に肘砂あるもない。あの切り札で、繋がれた鼠が繁殖した日です。

9.

重量は車体と土砂だろう。ほたる坂で話したか。いいえ。刑事の髭は六四に分け。刺青は青い派なり。栄える理由と人硝子。砂時計はもうない。細切りのお礼に繁栄した嵐が緊縛した口です。

10.

体重は車畳の±0砂だろう。ほたる坂で話をしたのは烏賊だ。刑事は四六時中髭を分け刺青は青刺派である。人硝子は栄養が十分なので、もう砂時計は食べてしまった。細切れの札束を咥え緊縛された尚子です。

11.

身重の車掌は土砂太郎。ぽーたる波の皺を伸ばしたのは盗賊だ。熊の刑罰は有益であると分かり、青刺身は春の制服である。猫の様子に呆れる粉末の宴など、ほら、秒時計は食べてました。細分した礼装を姪と繁茂しがちな光子です。

12.

慎重な運勢は三秒犬の飯だった。は～な波砲の舵を申し出たのは次男の果戒だ。荊原は世界には態が有ると分かり、責任のある身は色券が制限されている。子猫様の果から崑崙まで未だ八十八分だ。ほぼ5秒の時間を怠けていました。糸田の分だったシネマ装置を冬至に真剣な米弓で撃墜した。

13.

真実の運動は秋分の晩だった。彼ははへな胞子の仏陀と共に刺したあま海の果実だ。鞠腹は巴昇が報いを月分けし、貴社のみ分身は色香が刺激されている。子宮縁の因果から混沌まで未だ十六穴だ。ほぼ日記の妙な寺の間を悠々といまいまい。菌糸の代りの韃靼人はシネマを装備し、青検査のため毎室を監禁した。

14.

真実の運命は秋の夜分の韃靼人。彼女は変な胞子の私に叱られ利用した。あまい海は無実だ。巴昇が脇腹を月末に報告し、紅暈の忌しい耳穴が、巴香に刺殺されている。予定では、緑の宇宙の困男から混浴まで十分で来れる穴だ。ははの日の記録では、微妙な暗示で今も欲望とともにいました。圏内の韃靼人の代りにはマシンを装填し、再検査のたびに海底を盤崇した。

15.

真実の運命は秋分の夜の韃靼人である。彼女の恋は予め私の鞆の中の匕首としての利益だ。あまい海の果実だ。巴昇は月木に脇差で報復して、耳の中に忘れた虹を畳み、巴香にその殻を剥がされている。伝令は宇宙の縁の国男から泥池まで粉々にできる人だ。心がけの日に言う縁なき己とは、暗算するときの微笑でA7を歌う塾の友達に聞きました。大気圏の韃靼人は代理数に十一の真実のミシンを装い、苺の溶盃が低いビニール梅であり、それこそが般若でした。

16.

真実の運命は秋分の夜に韃靼人と出歩く。彼女の恋は忌まわしき私の鞆の中の七面鳥の私語だ。ああ、私の海の果報だ。巴昇は肺を僅差で往復して耳の中に忘れた虹を畳み、巴香にその殻を剥がされている。宇宙の縁の国男から来た伝令は、泥池前で粉餅を食べるんだ。命がけの日に歌う縁なき巴は、昇なのか香なのか。暗喩するにも微少の少女を吸う学会の達人がそう問いました。大機嫌の韃靼人が代理皺で十一の真実のミッションを纏い、苺の溶媒が底に溜まるビキノレ桶であれば、それこそが殺岩礼だ。

17.

果実の運命は秋分の夜に韃靼人とデンマークにいる。彼女の恋は忍びまわしの私の腕の中の七面鳥の仏語だ。あの私毎の栗沢だ。巴昇は姉を脇差で往生させて取り忘れた蠅を悼み、巴香にうそ

の燃殻を剥がされている。宇宙の記録の固有地から来た伝説は、泥池荊で粉塀を並べる。運命の日に歌う縁なき巴はかなり昇な香。暗礁には黴を炒めた女を扱う学会の達人がうその門にいました。大規模の韃靼人が代数戦で±真実ミッシングを繕い、毒の容器に低く潜んだピノキオ様である。それこそが穀象虫だ。

18.

顆粒の運河には千九分の旅をする韃靼人と天竺駱駝がいる。彼女は恋まきびしの私の腕の中で七面六臂の仏頂面をする。あれは支払い済の小計だ。巴昇は脇腹に生えた生柿を取り忘れた。巴香は縄を掴みもう燃殻を嗅がされている。宇宙の記録にある個々の月と地球から来たという澱粉は、流刑地で粉瓶とともに並んでいる。運河の夕日に演歌なき巴ばかりな昇と香。そのとき、明確な黴の妖怪を祓う議長がもうその門前に来ていました。大相撲の韃靼人が千秋楽の審議で密林シダソングを歌い始める。ここで、暗い小麦の溶岩を低圧蒸溜のピンキリ様とする。これでそこそこ蟬殻になる。

19.

顆粒の銀河には十六時間四十九分の旅をする韃靼人と天竺駱駝がいた。天竺駱駝は私の腕の中で恋まきびしに阻まれて七面六臂の仏頂面をしている。天竺での支払いは済んでいる。巴昇は脇腹に生えた生柿を収穫し忘れた。巴香は腕を組みまだ燃殻を嗅がされている。宇宙の記録にある個別の月から地球に来たという澱粉は、流刑地で粉瓶とともにレジの行列に並んでいた。運河の夕日に演算なき巴のごとし昇と香。そして、明敏な黴の妖怪を吸う議長が妄想の門前にまで来ていた。その年、大横綱の韃靼人は千秋楽で審議になり密林深林シダソングを初めて歌った。それから暗い川面の雪解けを、拒む溜飲のピンキリ模様という。これが損なわれた蟬の宮殿の真相である。